



方相氏

# じょうの 城野遺跡公園を実現する会

会報 第2号

北九州市小倉南区域野/JR日豊本線・JR日田彦山線「城野駅」南口から徒歩3分

例年のない猛暑が続き、7月初旬の記録的大雨は自然の脅威を改めて見せつけられました。被災地の方々へは心よりお見舞い申し上げます。

近年温暖化や自然災害への警鐘が鳴らされ、縄文や弥生時代の人々はどんな暑さ対策をし、毎年やってくる大雨や洪水にどう対処したのでしょうか。祈ること、自然を怖れることから何かを学び、先人の歴史を学んで人々は進歩してきました。遺跡はその教科書です。教科書となるべき遺跡は破壊したら二度と元に戻りません。

遺跡保存の意義は其処にあつて、目に見えるからこそ学べるのであり、記録保存では不可能です。現地の風景と併せてこそ教科書になるのです。遺跡の保存には「住民の熱意、専門家の助言、行政の決断」が必要です。本会では、遺跡の存在を確認すべく遺跡巡りを企画し、役所との共同作業の第一歩として出前講演を開催、住民の輪を広げる為に団体や企業への働きかけも展開し、各地の学芸員や大学の先生等専門家の方々にも城野遺跡を宣伝し、「城野遺跡公園」実現に向けた運動を高めてまいります。最近、市内に本社のある大手サービス会社が地元の城野遺跡の重要性に着目し、団体会員として入会いただいたことは大きな励みとなっています。

5市合併で誕生した北九州市としての歴史は未だ55年です。合併を経験した自治体は歴史を共有することが郷土愛創生に不可欠です。縄文・弥生の時代から人々はこの九州北端の企救半島を含む地域に住まい、『万葉集』や『日本書紀』にも登場する歴史を重ねてきました。視点をちょっと変えると新たな歴史的繋がりや連帯感の誕生です。そこに、北九州市の「未来発展の鍵」、また「行政の存在意義」もあるのではないのでしょうか。



城野遺跡公園のイメージ図 (山内正一氏作図)

## ● 北九州市の出前講演「北九州市の文化財と文化財行政－埋蔵文化財を中心に－」を開催

→ 出前講演の様子



6月29日(金)、小倉北区生涯学習総合センターにおいて文化企画課埋蔵文化財担当係長を招き、標題の出前講演を開催しました(参加者18名)。係長ご自身の文化財への思い、文化財保護法の理念、市の文化財とその取り扱い等、パワーポイントを使った丁寧な講演と質疑応答により文化財への熱意は伝わってきました。しかし、邪馬台国時代(1800年前)の貴重な城野遺跡の取り扱いについてはほとんど説明が無く、事前に「答えられない」と告知されていたとは言え、担当者が市民の質問に答えられない状況自体に、北九州市の文化財行政のゆがみと無責任さを痛感しました。講演会が和やかに進んだだけに、市の埋蔵文化財担当者としての立場に

は同情しつつ、専門家や市民の熱い要望を真摯に受け止めていただくことを期待し、この講演を機に市の文化財担当者との関係をより大切にしていきたいと思いました。

## ● 「ふるさとの古代人に出会うプチ旅」の第一弾を実施しました!

梅雨明け前の太陽が照りつける6月24日(日)、「城野遺跡公園を実現する会」主催の遺跡めぐりプチ旅を実施しました(参加者28名)。案内は日本考古学協会埋文委員の佐藤浩司さん。午後1時前城野駅南口に集合後、さっそく城野遺跡へ。「ゆめマート 城野店」の建設が進む中、弥生時代後期の方形周溝墓部分は草むらに風にゆれ、地下のお墓は無事な様子に安心しながら重留遺跡へ。日本で初めて広形銅矛を埋めた堅穴住居が見つかった重留遺跡(弥生時代後期、地下に保存)は復元住居のウレタン塗装が朽ち剥がれて管理の悪さが目立ちます。広形銅矛が国指定重要文化財になったごほうびに、遺跡公園をリニューアルすればいいのに……。

その後JRで下曾根駅へ。前方後円墳を5ヶ所巡りました。うっそうとした木々に守られた荒神森古墳ではしばし静寂に浸り、丸山古墳と円光寺古墳は原形こそ破壊されていましたが、カーブする水路が古墳の裾の輪郭を暗示しています。次は潤崎遺跡でみつけた埴輪窯跡、10号線バイパス脇に保存されている茶毘志山古墳、上山山古墳を見学。「この地域にだけ前方後円墳が存在する」との説明があり、今まで気づかなかったふるさとの古代を垣間見ることができました。これらの古墳は城野遺跡の巨大な方形周溝墓よりかなり時代が下りますが、権力者の様々な想いに浸れる4時間の熱いプチ旅でした。次回のプチ旅も乞うご期待!



↑ 荒神森(カウソノ)古墳見学の様子



↑ 茶毘志山(チビシヤマ)古墳の前で

## ● 当会顧問 近藤英夫 先生(東海大学名誉教授 日本考古学協会副会長) 面談の報告と会へのメッセージ!

7月2日(月)の夜に東京・新宿で、近藤先生との面談が叶い、城野遺跡と当会の現状を報告しました。先生は今夏の日本考古学協会総会で副会長に再任され、遺跡の保存・保護に引き続き努めたいとの思いを披露されました。地元の茅ヶ崎市や相模原市の遺跡の保存にも深く関わっておられ、大変参考になるお話も伺いました。

地元民の熱意が実った例として茅ヶ崎市の「七堂伽藍遺跡」が印象的でした。約60年前(1957)に地元住民や郷土史家が中心になり「七堂伽藍跡」の石碑を遺跡の一角に建立しました。その20年後に確認調査が始まり、58年後(2015)に「七堂伽藍跡」は官衙遺跡の一部として国史跡に指定されました。遺跡注目のきっかけは住民の熱意であり、その後の専門家との連携が状況を打開し、市教委を動かしました。実に半世紀を越えた動きです。

遺跡の保存には「住民・専門家・役所」の三者連携は不可欠です。6月24日の「遺跡巡り」、29日の「北九州市の出前講演」のイベントに、先生より「やったね!」との感想と遺跡公園実現の運動を引き続き応援する旨のメッセージを頂戴しました。先生持論の「この遺跡、残さんでどうする」を肝に銘じ、我々北九州市民と行政の見識と能力が試されている時でもあります。力を合わせて良い先例にしようではありませんか!

※紙面の関係で今回掲載出来ない話題は次号で掲載予定ですので、ご期待ください。

ホームページ「城野遺跡公園を実現する会」で情報発信しています。ぜひご覧ください。



## ● 市議会教育文化委員会、採決動議で「西エリア全域の遺跡公園実現」の4陳情一括不採択に！

6月12日(火)の教育文化常任委員会で、これまで「西エリア全域を遺跡公園へ」など提出してきた当会の陳情4件を採決することが提案され、一括不採択になりました。これまでの教育文化常任委員会においては、採決はしないで継続審議となっていました。小倉南区の渡辺均議員(自民党)から採決動議が出され、陳情は賛成少数で否決されました。陳情に賛成したのは藤元聡美議員(共産党)のみで、自民党・公明党・ハートフル・福岡ネットの議員は全員が今回の採決動議に賛成し、陳情には賛成しませんでした。私たちの遺跡公園実現の願いは政治的に対立するものではなく、埋蔵文化財の保存と遺跡を活用したまちづくりは党派を越えた問題であり、城野遺跡のある地元小倉南区の議員から陳情不採択の採決動議が出されたことは、本当に残念です。

この時点で採決したのは、今年度予算に計上された方形周溝墓付近の一部の土地取得費3000万円の執行にかかるためと思われます。部分的な遺跡広場とする市の計画を進めるためには「西エリア全域を遺跡公園へ」という陳情が継続審議になっているのが邪魔だということでしょう。不採択となった陳情と同じ内容では受け付けられませんが、陳情請願は提出できます。遺跡は一度破壊したら、元には戻りません。未来の世代に悔いが残らぬように、次の9月議会にも諦めることなく新たな陳情署名を提出します。

## ● エアーステーションヒビキ(コミュニティFM)の「地球のかおり～北九州の自然と山～」に出演

雄大なカルスト台地、平尾台にソーラーパネルが突然出現、建設が進んでいます。これに反対し活動を続けている北川あかねさんが、当会主催の講演会に参加され、北九州市の自然や歴史、文化を大切にすることに共感され、あかねさんがパーソナリティ(司会)をつとめるラジオ番組「地球のかおり～北九州の自然と山～」に出演する機会をいただきました。役員2名でのラジオ出演は2回目。1回目より度胸が付き、若松区の学研都市の一角で、若者になった気分で熱く語りました。

城野遺跡発掘の経緯、城野遺跡の歴史的価値、遺跡公園として残す必要性等々、事務局長とあかねさんが丁々発止と盛り上がり、一緒に出演した運営委員も合間に自分の思いを発信しました。あかねさんがとても柔らかい雰囲気の話し方だったので、気持ちよくお喋りできました。番組を聴いて下さった方々には、城野遺跡が学術上貴重な遺跡であり、未来の子供たちに残すべき歴史遺産であることを伝えられたと思います。

## ● 「ゆめマート城野」建設の地元説明会に参加して

4月6日(金)の夜、城野市民センターで開かれた「ゆめマート城野」建設に係る地元説明会に参加しました。大規模小売店立地法に基づく設置者(株)イズミの主催で、大和ハウス工業(株)は工事請負事業者の立場です。スーパーマーケットの建設で、周辺住民の生活環境に影響を及ぼす可能性があるため、設置者は渋滞や騒音、ごみ処理等について地元で説明しなければなりません。

参加者は、会員を含め10人程度で、質問は駐車場への車の出入方向や、夜間の車の照明の方向についてでした。会員からの「重要な遺跡が出土したと聞いているが…」との質問には「城野遺跡の問題は終了したことであり、説明会の趣旨は建築に伴う問題についてだ」と大和ハウス工業(株)が答え、玉作り工房跡の保存状況も明確な答えはありませんでした。

また、入札資料の注意書きにも明記されていた住宅地に接する側の通路は、市に無償譲渡を申し出たが、「維持管理が大変だから…」と市は断ったということが分かりました。住民は工事が終われば、また元のように通行できると思っていたところが、住宅側の境界に高いブロック塀が築かれ、通用門のあった住宅は通路側に扉を開閉できなくなって初めて通路が無くなることに気付いたのです。事前の住民への説明は全く不十分であり、市当局も住民に相談することなく無償譲渡の申し出を断ったことは、住民無視のそしりを免れません。

## それなんのこ？ 考古学用語解説コーナー

### 箱式石棺 (はこしきせつかん)

弥生時代の北部九州や中国地方でみられる遺体を葬るお棺(内部主体)の種類のこと。古くは東北・中部地方で縄文時代後期には出現している。他に木棺、甕棺などがある。平たい板石や川原石で長方形に掘った土坑の四面を囲うもの、床面にも石を敷いたものがある。また、遺体を納めた後は石で蓋をし、粘土で目貼りをすることが多い。

城野遺跡では、方形周溝墓のほぼ中央に棺を納めるための長方形の穴を掘り、箱式石棺を築いて遺体を入れ、蓋をした後、邪悪な霊が入ってこないように嚴重に粘土で目貼りをしていた。棺のなかには赤色顔料(水銀朱)を大量に撒いて、頭部の板石(木口石)には絵画文様を描いていた。箱式石棺はサイズが小さく、二基が重なるように時をおいて築かれており、相次いでなくなった兄弟を納めた可能性が高い。こんなに手厚く葬られた子供の墓は極めてまれで、城野遺跡の重要性を示している。



## ● 北九州市の生活情報誌『さくら』に載りました！



## ● 毎日新聞の定期刊行紙『まいにちまいむ』にも！



## ～会員のみなさまへのお願い～

### ★署名にご協力ください！

9月議会に向けて、同封の新しい陳情署名「日本屈指の弥生遺跡にふさわしい遺跡公園へ」に取り組んでいます。ご家族やお知り合いに広めてください。お手数ですが、署名用紙に記載の送付先へお送りいただくか、お近くの役員にお渡しください。足りない場合はコピーしていただくと助かります。たくさん必要なのは永田宛ご連絡ください。

**一次締切 9/20 とし、その後も積み上げます！**

### ★会員を広めてください！

お願いできる個人や団体に入会を勧めてください。入会申込書と下記年会費はお近くの役員にお渡しください。FAX申込の場合は下記永田あてにFAXし、年会費は下記の振替口座(ゆうちょ銀行)にお振込みください(「年会費」と明記し、住所、氏名、電話番号を必ずご記入ください)。お問い合わせは永田まで。

※年会費は個人 1000円、団体 2000円です。

※活動資金への寄付金へのご協力もお願いします。

和厚垣墓の場合「実社会」に明記してください

発行日 2018年8月5日  
 発行者 城野遺跡公園を実現する会  
 編集担当 高橋徹雄  
 連絡先 永田由起(事務局長)  
 TEL 090-3079-6503 FAX 093-951-3524  
 振替口座 ゆうちょ銀行 01780-0-147174  
 「城野遺跡公園を実現する会」